

◎ 指示があるまで開かないこと。

(令和8年2月12日 13時55分～15時15分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は55問で解答時間は正味1時間20分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例1)、(例2)及び(例3)の問題では1から4までの4つの選択肢、もしくは1から5までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例1)、(例2)では1つ、(例3)では2つ選び答案用紙に記入すること。

なお、(例1)、(例2)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。(例3)の質問には、1つ又は3つ以上解答した場合は誤りとする。

(例1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

| | | | | |
|-----|---|---|---|---|
| 101 | ① | ② | ③ | ④ |
| | | ↓ | | |
| 101 | ① | ② | ③ | ● |

答案用紙②の場合、

| | | |
|-----|---|-----|
| 101 | | 101 |
| ① | | ① |
| ② | → | ② |
| ③ | | ③ |
| ④ | | ● |

(例2)

102 保健師助産師看護師法が制定された年はどれか。

1. 明治 32 年(1899 年)
2. 大正 4 年(1915 年)
3. 昭和 23 年(1948 年)
4. 昭和 43 年(1968 年)
5. 平成 13 年(2001 年)

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。

| | | | | | | | | | | |
|-----------|---|---|---|---|-----------|-----|-----|---|---|---|
| 答案用紙①の場合、 | | | | | 答案用紙②の場合、 | | | | | |
| 102 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 102 | 102 | ① | ① | |
| | | | ↓ | | | | | ② | ② | |
| 102 | ① | ② | ● | ④ | ⑤ | | | ③ | → | ● |
| | | | | | | | | ④ | ④ | |
| | | | | | | | | ⑤ | ⑤ | |

(例3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

| | | | | | | | | | | |
|-----------|---|---|---|---|-----------|-----|-----|---|---|---|
| 答案用紙①の場合、 | | | | | 答案用紙②の場合、 | | | | | |
| 103 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 103 | 103 | ① | ● | |
| | | | ↓ | | | | | ② | ② | |
| 103 | ● | ② | ③ | ④ | ● | | | ③ | → | ③ |
| | | | | | | | | ④ | ④ | |
| | | | | | | | | ⑤ | ● | |

(2) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：①②%

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

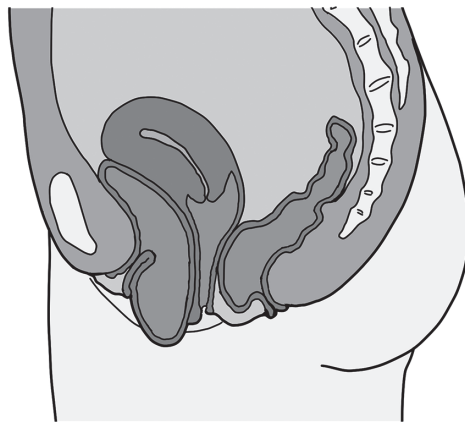
| | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ① | (0) | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) | (●) |
| 104 | (●) | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) | (9) |

答案用紙②の場合、

| | |
|-----|-----|
| | 104 |
| ① | ② |
| (0) | (●) |
| (1) | (1) |
| (2) | (2) |
| (3) | (3) |
| (4) | (4) |
| (5) | (5) |
| (6) | (6) |
| (7) | (7) |
| (8) | (8) |
| (●) | (9) |

- 1 保健師助産師看護師法で助産師について規定されているのはどれか。
1. 都道府県知事の免許を受ける。
 2. 看護師の資格を有することが必須である。
 3. 助産師は、その業務に関して就業地を管轄する保健所の長の指示を受ける。
 4. 思春期、成熟期、更年期、老年期の女性への保健指導を行うことを業とする女子をいう。

- 2 骨盤の横断面の図を示す。



考えられる疾患はどれか。

1. 子宮脱
 2. 直腸瘤
 3. 膀胱瘤
 4. 子宮下垂
- 3 子宮の構造で正しいのはどれか。
1. 子宮体部は軟産道の一部である。
 2. 子宮壁は子宮内膜の一層からなる。
 3. 生理的収縮輪は洞筋部に形成される。
 4. 子宮峡部は解剖学的内子宮口と組織学的内子宮口の間である。

- 4 ジェンダー・アイデンティティについて正しいのはどれか。
1. 生涯にわたって固定的である。
 2. 最初に形成されるのは10～12歳である。
 3. 「男である」「女である」のどちらかに自認される。
 4. ジェンダー・アイデンティティの発達は社会的・文化的な影響を受ける。
- 5 経口避妊薬の情報提供で正しいのはどれか。
1. 子宮内膜症が増悪する。
 2. 内服に年齢制限はない。
 3. 性感染症の予防効果がある。
 4. 子宮体癌のリスクを低下させる。
- 6 胎児の免疫グロブリンについて正しいのはどれか。
1. IgMの胎盤通過は単純拡散による。
 2. 母体から胎児へのIgG移行には能動輸送が働く。
 3. 胎児血液中にみられる主な免疫グロブリンはIgAである。
 4. 母体から胎児へのIgGの移行は胎生8週から開始される。

7 胚葉由来と組織の組合せで正しいのはどれか。

1. 外胚葉 ———— 消化器
2. 中胚葉 ———— 甲状腺
3. 中胚葉 ———— 心 臓
4. 内胚葉 ———— 中枢神経

8 胎児の臓器の成熟について正しいのはどれか。

1. 在胎 9 週ころから心拍数は徐々に減少する。
2. 在胎 16 週ころから肺サーファクタントの産生が開始する。
3. 在胎 20 週ころから尿の産生が開始する。
4. 在胎 30 週ころ肝臓が造血の中心となる。

9 乳児の特徴として適切なのはどれか。

1. 生後 1 か月で寝返りをする。
2. 生後 3 か月で手で握ったものを持ち替える。
3. 生後 5 か月で呼びかけの声の方に顔を向ける。
4. 生後 10 か月でパラシュート反射は陰性である。

10 妊娠期で薬剤による催奇形性が最も高いのはどれか。

1. 妊娠 12 週未満
2. 妊娠 12～16 週未満
3. 妊娠 16～20 週未満
4. 妊娠 20～24 週未満

11 A さん(26 歳、会社員)は産婦人科クリニックでクラミジア感染症と診断された。助産師の説明で適切なのはどれか。

1. 「異所性妊娠の原因になります」
2. 「月経困難症の原因になります」
3. 「外陰部の痛みの原因になります」
4. 「ワクチン接種で感染を予防できます」

12 A さん(30 歳、初産婦)は陣痛開始から 10 時間が経過した。分娩第 1 期の内診所見は、前方後頭位、先進部の下降度は Station +2 で、矢状縫合は斜径であった。

このときの児頭の骨盤内下降の状態正しいのはどれか。

1. 児頭は排臨の状態である。
2. 児頭の先進部は坐骨棘線上である。
3. 児頭の最大周囲径は骨盤潤部にある。
4. 内診指で恥骨結合を触れることができない。

13 Aさん(28歳、初妊婦、事務職員)はパートナーと同居しているが、入籍の予定はない。妊娠20週で2か月ぶりに産科外来を受診した。妊娠経過は順調であった。Aさんは、妊娠を予定していなかったこと、妊娠している実感がなく、腹部が気になっているので食事量を減らしていることを助産師に話した。

このときのAさんへの関わりで最も適切なのはどれか。

1. 腹帯の着用を勧める。
2. 出産準備教室を受講するように勧める。
3. 超音波診断装置で胎児の画像を見せる。
4. 胎児のことを第一に考えて生活するように説明する。

14 オキシトシン点滴静脈内注射による分娩誘発中の管理で正しいのはどれか。

1. 精密持続点滴装置を用いて投与する。
2. 分娩第1期の胎児心拍数陣痛図の評価は30分ごとに行う。
3. 胎児心拍数波形のレベル3では、オキシトシンを増量してよい。
4. 前回の増量時から15分経過していれば、オキシトシンを増量してよい。

15 Aさん(30歳、初産婦)は妊娠36週。Aさんの夫から「血液を見るのがすごく苦手です。気分が悪くなります。妻は出産の立ち会いを希望していますが、自分はしたくない。仕事も忙しくて休めないし、父親になる実感がわかなくて。両親学級も参加できていないので育児も心配です。どうしたらいいですか」と相談を受けた。

このときの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 出産への立ち会いを促す。
2. 夫への育児指導を計画する。
3. 育児休業を1年間取得するように勧める。
4. 毎回妊婦健康診査に付き添うように伝える。

16 産褥3日のAさん(39歳、経産婦)に退院後の生活指導をしていた助産師は、面会に来た第1子(3歳、女兒)の服装の汚れとシャツの襟元から背中の中出血斑に気付き、虐待を疑った。

助産師が情報を提供する先として適切なのはどれか。

1. Aさんの居住地の産後ケアセンター
2. 第1子のかかりつけの医療機関
3. Aさんの居住地の市町村
4. 第1子が通う保育所

17 ルテイン嚢胞について正しいのはどれか。

1. 自然消失することが多い。
2. 内容液に脂肪成分を含む。
3. 産道通過障害の原因となる。
4. 診断のためにMRI検査が行われる。

18 新生児の疾患スクリーニングについて適切なのはどれか。

1. 自動聴性脳幹反応(AABR)では pass または refer と判定される。
2. 新生児マススクリーニング検査の意義は治療困難な疾患を発見することにある。
3. 聴覚スクリーニング法としての耳音響放射(OAE)では中枢の異常を発見できる。
4. 新生児マススクリーニング対象疾患の中で最も頻度が高いのは先天性副腎過形成症である。

19 新生児の消化器症状と疾患の説明として正しいのはどれか。

1. 中腸軸捻転症は自然軽快することが多い。
2. ミルクアレルギーでは血便が出ることはない。
3. 臍ヘルニアは鼠径ヘルニアよりも嵌頓のリスクが高い。
4. 胆汁性嘔吐は十二指腸 Vater〈ファーター〉乳頭部から肛門側での通過障害によって起こる。

20 順調に発育している3歳児の社会性を促進するために効果的なのはどれか。

1. 家事代行サービスの利用
2. 商業施設で開催している個別育児相談
3. 児童館で開催している幼児の体操教室への参加
4. ソーシャルネットワーキングサービス〈SNS〉で配信されている動画の視聴

21 新生児の呼吸窮迫症候群〈RDS〉のリスク因子となる母体合併症はどれか。

1. 糖尿病
2. 橋本病
3. 気管支喘息
4. 重症筋無力症

22 鷺口瘡について正しいのはどれか。

1. 痛みは伴わない。
2. カンジダ感染である。
3. 口腔内の赤い皮疹が特徴である。
4. 3歳以降で発生頻度は低くなる。

23 母子健康手帳について正しいのはどれか。

1. 産後ケアの記録欄がある。
2. 身体発育曲線は男女共通である。
3. 様式は児童福祉法に規定されている。
4. 交付を受けるにあたって、妊娠の届出は任意である。

24 妊娠による身体の変化で正しいのはどれか。

1. 膣壁はリビド着色する。
2. 子宮頸部の軟化は子宮体部より早く始まる。
3. Piskacek〈ピスカチェック〉徴候は妊娠5か月に顕著となる。
4. 乳輪に形成される Montgomery〈モントゴメリー〉腺は第2次乳輪である。
5. 子宮の着床部位が膨隆して触れることを Hegar〈ヘガール〉第1徴候という。

25 出生後1週以内の新生児における異常所見はどれか。

1. 睡眠時間が20時間/日
2. ヘモグロビン値が10 g/dL
3. 安静時の呼吸数が40回/分
4. 新生児中毒性紅斑が体幹に3個
5. 大泉門の大きさが長径20 mm × 短径10 mm

26 分娩第1期における産婦の食事で適切なのはどれか。

1. 食事を全量摂取するよう伝える。
2. 食物繊維の多い食べ物を勧める。
3. 血糖値が緩やかに上昇する食べ物を勧める。
4. 水分は口渴を認めたときに摂取するよう説明する。
5. 硬膜外麻酔分娩の希望がある場合は固形物の摂取を禁止する。

27 全ての子どもや若者が将来にわたって幸せな生活ができる社会を実現することを目的に制定された法律はどれか。

1. 児童福祉法
2. 母子保健法
3. こども基本法
4. 少子化社会対策基本法
5. 成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対して必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律〈成育基本法〉

28 女性を中心としたケア〈Women-centered care〉で述べられている特徴はどれか。

2つ選べ。

1. 安全
2. 自立
3. 健康寿命の延伸
4. パートナーシップ
5. ガイドラインの遵守

29 簡略更年期指数表に沿って確認する症状はどれか。2つ選べ。

1. 疲れやすい
2. 頻尿である
3. 乾燥感がある
4. 汗をかきやすい
5. 性交障害がある

30 マーサー, R. T. の母親役割移行過程理論の説明で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 子どもの特性は母親役割獲得に影響を及ぼす。
2. 母親は産後4か月までに母親役割を獲得する。
3. 母親役割獲得のプロセスには3つの段階がある。
4. ハイリスク妊娠の女性と家族には適応できない理論である。
5. 妊娠中の母親役割に対する心理・社会的準備段階にあたるのは予期的段階である。

31 てんかん合併妊娠について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 妊娠によって、てんかん発作の頻度は減少する。
2. 妊娠中は抗てんかん薬の血中濃度を測定する。
3. 妊娠中期から葉酸を補充する。
4. 妊娠末期に母体にビタミンKを投与する。
5. 分娩様式は帝王切開術となる。

32 分娩時の努責について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 破水前に努責がかかることは少ない。
2. 児頭の最大周囲が娩出する時は努責を継続する。
3. 子宮口全開大前に努責がかかる場合は深呼吸を促す。
4. 分娩時の努責は子宮の平滑筋の収縮によって起きる。
5. 胎児娩出直前に腹圧の抑制がきかない状態を共圧陣痛と呼ぶ。

33 Aさん(28歳、経産婦)はオキシトシン点滴静脈内注射を使用し、体重3,000gの児を正常分娩で出産した。分娩所要時間は12時間、会陰裂傷はI度で縫合せず、産道損傷はない。分娩時出血量は400mLだった。分娩後1時間のバイタルサインは異常所見なく、出血量30mL、子宮底は臍下1横指であった。分娩後2時間のバイタルサインは異常所見なく、出血量50mLであり、子宮底は臍下1横指で硬度は輪状マッサージにて良好であった。尿意はなく、膀胱充満をわずかに触知した。

このときのAさんへの助産師の対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 内診を行う。
2. トイレ歩行を促す。
3. 1時間後に出血量を観察する。
4. 飲食を控えるように説明する。
5. 点滴静脈内留置針を抜去する。

34 母子及び父子並びに寡婦福祉法に基づくひとり親家庭への支援で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 就業支援
2. 生活扶助
3. 不妊治療助成
4. 保育所の優先入所
5. 母性健康管理指導事項連絡カードの使用

35 産科病棟で提供している授乳支援の成果を評価するための指標で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. ケア計画の内容
2. 褥婦のケア満足度
3. 乳房トラブルの件数
4. ケアの判断過程の妥当性
5. 助産師1人が担当する褥婦の数

36 助産師が死胎検案書に記載する項目はどれか。2つ選べ。

1. 子の頭囲
2. 父の氏名
3. 母の氏名
4. 単胎・多胎の別
5. 子の父母との続き柄

37 Aさん(27歳、初産婦)は自宅近くの無床の診療所で妊婦健康診査を受診しており、分娩は隣県の実家近くの総合病院とする予定である。妊娠30週になったAさんは、分娩予約のために自家用車で総合病院を受診した。妊婦健康診査で妊娠経過が順調であることが確認できた。Aさんは外来の助産師に「最近地震が多くて不安です。大地震に備えてできることを教えてほしいです」と相談した。

このときのAさんへの助産師の指導で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 「赤ちゃんの栄養は粉ミルクにしましょう」
2. 「赤ちゃんのベッドは窓際に置きましょう」
3. 「非常用の水や食料を車にも積んでおきましょう」
4. 「地震が起きたら速やかに避難所へ移動しましょう」
5. 「自宅近くの分娩取扱施設も確認しておきましょう」

次の文を読み 38～40 の問いに答えよ。

A さん(26 歳、初妊婦)はこれまで妊娠歴はなく、既往歴、家族歴に特記すべきことはない。非妊時の体重 42 kg、身長 165 cm である。妊娠 8 週に少量の性器出血がみられた。その後、性器出血はない。妊娠 20 週 1 日に妊婦健康診査のために産科外来を受診した。妊婦健康診査の結果は次のとおりである。

体重 44 kg。血圧 118/68 mmHg。尿蛋白(－)、尿糖(－)。児頭大横径〈BPD〉は 46.0 mm。

38 今後の A さんの妊娠経過中、リスクが高いのはどれか。

1. 前置胎盤
2. 羊水過多
3. 妊娠糖尿病
4. 胎児発育不全〈FGR〉

39 A さんは「少しずつ赤ちゃんの動きを感じるようになってきました。赤ちゃんはこれから新たにどんなことができるようになりますか」と助産師に質問した。

このときの助産師の説明で正しいのはどれか。

1. 「あくびするようになります」
2. 「音に反応するようになります」
3. 「羊水を飲み込むようになります」
4. 「呼吸するような胸の運動をはじめます」

40 Aさんは「今までより食欲が出てきて、体重も増えてきました。あまり体重は増やしたくないけれど、赤ちゃんのために食事のバランスは考えたいと思っています」と話した。

Aさんへ栄養指導を行うためのアセスメントで正しいのはどれか。

1. 栄養の過不足の把握が必要である。
2. 妊娠期間全期の体重増加量を15 kg以上とする。
3. 食べられるときに少量ずつ摂取する必要がある。
4. 必要なエネルギー付加量は1日当たり50 kcalである。

次の文を読み 41～43 の問いに答えよ。

Aさん(32歳、初産婦、会社員)は妊娠32週0日である。夫(33歳、会社員)と2人暮らし。本日は妊婦健康診査のため来院した。身長160cm、非妊時体重57.0kg。これまでの妊娠経過は問題ない。「最近、腰痛が気になります」と話す。腹部は柔らかく、子宮収縮の自覚はない。助産師はLeopold〈レオポルド〉触診法で胎児が第1頭位であることを確認後、安藤による子宮底長の測定法で子宮底長を測定することにした。Aさんは15分前に尿検査を済ませている。

41 このときの助産師のAさんへの声かけで適切なのはどれか。

1. 「尿を溜めるために水分を摂りましょう」
2. 「気分が悪くなったら左向きになりましょう」
3. 「測定が終わるまで膝を曲げていてください」
4. 「測定時は息を大きく吸い込んで止めましょう」

42 診察の結果、体重65.0kg、血圧134/70mmHgで、5分後に118/60mmHg、下肢浮腫(±)、尿蛋白(±)、尿糖(-)、胎動+。子宮底長28.0cm、腹囲89.0cm、胎児心拍数156bpm、推定胎児体重は1,800g、AFIは21cmであった。

Aさんの状態のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 羊水過多である。
2. 妊娠高血圧腎症である。
3. 胎児の発育は正常である。
4. 外診上の子宮の大きさは週数に対して小さい。

43 Aさんの食事は1日2食で、惣菜や外食で済ませている。オンラインゲームが趣味で、徹夜することもある。

Aさんに行う保健指導として正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 安静保持
2. 家族計画
3. 水分制限
4. マイナートラブルの対処
5. 規則的な生活リズムへの改善

次の文を読み 44～46 の問いに答えよ。

A さん(43 歳、経産婦、専業主婦)は夫(45 歳、会社員)と男児(2 歳)と 3 人暮らしである。妊娠 18 週 5 日。A さんは「体がだるいですね。子どもの世話をするだけで疲れてしまうので、なるべく寝て過ごすようにしています」と言う。身長 160 cm、体重 65 kg(非妊時体重 62 kg)、血圧 132/80 mmHg。Hb 10.4 g/dL、Ht 32.7 %。随時血糖 92 mg/dL。尿蛋白(－)、尿糖(－)。子宮頸管長 35 mm。

44 A さんの妊娠経過の診断で正しいのはどれか。

1. 貧血
2. 切迫流産
3. 妊娠糖尿病
4. 妊娠高血圧症候群

45 A さんは現在妊娠 30 週 3 日である。体重 69 kg。血圧 142/90 mmHg。尿蛋白(－)、下肢浮腫＋。時々腹部が張る感じがすると話す。推定胎児体重 1,520 g、胎児心拍正常。医師から 1 週後に受診するようにとの指示があった。A さんは「夕方になると足の浮腫がひどくなります。自宅で血圧を測っています。子どもの世話があるので、入院になると困ります」と言う。

助産師が A さんに行う生活指導で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 「水分摂取を控えましょう」
2. 「自宅での血圧測定を続けましょう」
3. 「家事や育児の合間には安静を心がけましょう」
4. 「カルシウムの多い食品の摂取は控えましょう」
5. 「摂取エネルギーは、1 日 1,600 kcal 程度にしましょう」

46 Aさんは現在妊娠35週3日である。血圧135/84 mmHg。尿蛋白(一)、下肢浮腫(±)。Aさんは「前回のお産は時間がかかりました。陣痛もつらくて。お産が不安になってきました。バースプランはまだ立てていません。今回は最後のお産だと思うので、よい体験にしたいです」と助産師に話す。

Aさんへの助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 「前回より痛みは軽いですよ」
2. 「血圧が高いので帝王切開術になりますよ」
3. 「分娩中の過ごし方について一緒に考えましょう」
4. 「次回の健診までにバースプランを完成させてください」

次の文を読み 47～49 の問いに答えよ。

A さん(30 歳、初妊婦)は妊娠 12 週である。仕事は物流センターで商品の仕分けラインを管理している。本日、妊婦健康診査で産婦人科クリニックを受診した。妊娠経過は順調だが、退職を検討している。A さんは「職場では冷凍食品が担当で、マイナス 15℃の倉庫で作業するときもあります。職場は男性が多く、これまで妊娠した社員はいません。妊娠したことをそろそろ上司に話すので、退職のこともまとめて伝えたい方がよいかなと思っています。出産後も仕事を続けたい気持ちはありますが」と話す。

47 A さんの現在の就労環境の改善に関する法律はどれか。

1. 雇用保険法
2. 母体保護法
3. 労働基準法
4. 児童虐待の防止等に関する法律〈児童虐待防止法〉

48 A さんは妊娠 24 週の妊婦健康診査にて「上司と話し合っ、て、育児休業を取った後、職場復帰することにしました。夫の B は運送会社で非正規雇用として 2 年働いていますが、育児休業が取れるのか私もよく分かっていません」と話す。

B さんの育児休業に関する説明で正しいのはどれか。

1. 対象は正規雇用者に限定されている。
2. A さんが取得すると B さんは取得できない。
3. B さんが事業主に申し出なくても取得することができる。
4. 児の出生から 1 歳 2 か月に達する日の前までの間で取得できる。

49 Aさんは妊娠32週の妊婦健康診査で助産師外来を受診した。助産師が診察室へ入室するAさんを観察すると、腹部を突き出し猫背の姿勢で歩行していた。妊娠経過は順調であったが「立ち仕事が続くと腰が痛くなります。仕事に行く以外はあまり動きたくない感じです」と話す。

Aさんの姿勢について適切な保健指導はどれか。2つ選べ。

1. 「胸を張りましょう」
2. 「骨盤を下に傾けましょう」
3. 「あごは首に引きつけましょう」
4. 「おへそを前に突き出しましょう」
5. 「お尻や太ももの力を抜いてみましょう」

次の文を読み 50～52 の問いに答えよ。

A ちゃん(男児)は全身性エリテマトーデスを合併した母から在胎 36 週 2 日に頭位正常分娩で出生した。出生体重は 2,510 g であった。生後 1 分の時点で A ちゃんの筋緊張は軽度減弱し、皮膚刺激によってわずかに四肢を動かす様子が認められた。呼吸は浅く不規則で、全身にチアノーゼを認め、心拍数は 70/分であった。

50 このときの新生児蘇生法アルゴリズムに沿った対応で適切なのはどれか。

1. 胸骨圧迫と人工呼吸は 30 : 2 で行う。
2. 出生直後の評価ではまず心拍数を確認する。
3. 出生直後の呼吸停止と徐脈があれば直ちに胸骨圧迫を開始する。
4. 生後 3 分の経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉目標値は 70 % である。

51 生後 5 分時には、A ちゃんの呼吸は深く規則的で、チアノーゼは指先にのみ認められた。心拍数は 150/分、四肢を活発に動かし、刺激に対して強く啼泣した。蘇生終了後に新生児科医が診察したところ、左陰嚢内に精巣を触知できなかった。

A ちゃんについて当てはまるのはどれか。

1. 低出生体重児である。
2. 左鼠径ヘルニアである。
3. 低血糖症のリスクが高い。
4. Apgar〈アプガー〉スコア 5 分値は 6 点である。

52 日齢3。臍帯血を用いた血液検査で抗SS-A抗体は陽性であった。体温は37.3℃、心拍数は130/分であった。日齢2に便色は黒緑色から黄褐色に変化した。現時点で留意すべき疾患はどれか。

1. 胆道閉鎖症
2. 新生児感染症
3. 頻脈性不整脈
4. 先天性房室ブロック

次の文を読み 53～55 の問いに答えよ。

A さん(35 歳、経産婦)は身長 158 cm、非妊時体重 52 kg。5 年前に第 1 子を隣市の総合周産期母子医療センターにおいて正期産で正常分娩で出産した。今回も同じ施設で妊娠 8 週から受診し、経過は順調といわれている。妊娠 18 週 3 日に助産所を初診で訪れ「上の子のときは新型コロナウイルスに感染して家族の立ち会いができず、1 人で出産しました。今回は家族に囲まれて自宅でお産したいです。できるでしょうか」と相談した。

53 A さんの自宅分娩を検討するとき、助産師がまず確認するのはどれか。2 つ選べ。

1. 第 1 子の保育状況
2. 前回の分娩所要時間
3. A さんの自宅から実家までの距離
4. 助産所から A さん宅までの移動時間
5. 分娩場所についてのパートナーとの合意の状況

54 その後、A さんは助産所で家族が立ち会って出産をすることを決めた。妊娠 24 週 3 日に嘱託医療機関で行った超音波断層撮影では、推定胎児体重 600 g、AFI 8 cm、子宮頸管長 35 mm、内子宮口から胎盤下縁まで 2 cm の所見であった。

今後の A さんの管理にあたって、嘱託医療機関と助産所で協議の対象となるのはどれか。

1. AFI
2. 子宮頸管長
3. 推定胎児体重
4. 内子宮口から胎盤下縁までの長さ

55 Aさんは39週5日に助産所で第2子を正常分娩で出産した。出生時Apgar〈アプガー〉スコア1分後9点、5分後10点。出生時体重2,850g。生後2日から肉眼的に顔面の黄染を認めた。生後4日、体重2,800gで退院した。生後7日に助産師が自宅を訪問したところ、顔から胸まで黄染を認めた。児は母乳栄養で退院からの体重増加は30g/日であり、便は5回/日、尿もよく出ているとのことである。

このとき、助産師が行うアドバイスで正しいのはどれか。

1. 「母子健康手帳のカードを使って今後も便の色を確認しましょう」
2. 「日中の授乳後は湯冷ましで水分を補足しましょう」
3. 「夜間はミルクを補足しましょう」
4. 「母乳性の黄疸は心配ないです」

